地歴公民（世界史）　東京大学　（前期）　1/1

＜全体分析＞

試験時間　２科目で 150 分

解答形式
（第１問）論述式　（第２問）論述式・記述式　（第３問）記述式

分量･難易（前年比較）　**分量（減少･変化なし･ 増加 ）　難易（易化･ 変化なし ･難化）**
第１問は 20 行で昨年と変わらず。第２問は４行が２年ぶりに復活し、２行が４問で、それに短答記述が２問で、行数は４行増えた。第３問は設問 10 問で解答数も 10 個で、変化なし。

出題の特徴
論述総行数が 32 行で昨年より４行分増えた。第２問で４行論述が復活した。
第１問での「第二次世界大戦後史」を中心とする出題は 2005 年度以来であった。

その他トピックス
直前講習「東大本番プレテスト」の解説講義で第１問の 1970 年～80 年代の変化について、東アジア・中東は詳細に扱った。

＜大問分析＞

番号	出題形式	出題分野･テーマ	コメント（設問内容･答案作成上のポイントなど）	難易度
第１問	論述	1970 年代後半～80 年代の東アジア・中東・中南米	誘導文の「冷戦の終結は必ずしも世界史の転換点とは言えない」の部分を「民主化の進展の有無」や「宗教対立の存在」などの問題ととらえ、それに関連づけて各地域を論じる。	やや難
第２問	論述 記述	国家の経済制度・政策	問（3）は覇権国家オランダに対抗して、イギリス・フランスが重商主義政策を実施したことについて書けばよい。クロムウェルの航海法、コルベールが実施した政策について触れる。	標準
第３問	記述	世界史における民衆	今年度は全体的に平易であったため、完答した受験生も多かったであろう。	やや易

※難易度は５段階「難･やや難･標準･やや易･易」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

＜学習対策＞

政治・経済・社会・文化の諸分野で時代・地域を総合的に把握しようとする学習態度が望まれる。また毎年、出題形式が決まっているので、早めに通史の学習を終わらせ、過去問対策を行うことが重要である。

© 河合塾　2016 年